

老人クラブ

「100万人会員増強運動」

5カ年計画(平成26~30年度)

仲間ふやそう



全国老人クラブ連合会



はじめに／1

総力を結集して
全国100万人会員増強を達成しよう!(委員長挨拶)／2

老人クラブ「100万人会員増強運動」 3 要綱

都道府県・指定都市老連、 市区町村老連ごとに、 独自のプランを作成しよう! 7

1 運動目標数の設定／8

2 3つの共通実施運動／10

運動① 勧誘から始めよう!／11

運動② クラブをPRしよう!／12

運動③ クラブをつくろう!／13

参考資料

会員増強への意見・事例から見える「キーワード」／17

クラブ自己点検のすすめ／18

これまでの検討経過と今後の予定／19

はじめに

わが国の高齢者人口は3000万人を超え、今後もさらに増加することが見込まれています。一方、老人クラブでは平成10年をピークにクラブ数・会員数が減少に転じ、平成24年度までに約2万クラブ、200万人の会員が減少しました。

この間、地域での取り組みをはじめ、都道府県・指定都市段階でも、会員増の目標設定、愛称募集、加入達成クラブの表彰、報奨金制度などさまざまな加入促進策が講じられてきました。一部では成果が認められますが、全体的には減少傾向の有効な歯止めには結びつかなかったのが現状です。

また、全老連では、「老人クラブ活性化3か年計画」(平成22～24年度)を提案して、全国の関係者とともに“若手リーダーの養成・活用”“健康づくり・介護予防活動”“一般高齢者への呼びかけ”を推進してきましたが、これも会員増までには至りませんでした。

今、老人クラブの会員増強、仲間づくりの取り組みは、全国の老人クラブ関係者に共通する課題であり、この打開策について足元から見つめなおす必要があります。

平成24年に全老連は創立50周年を迎え、これを契機として、新たな会員増強運動の立案に着手することとしました。具体的には翌25年度に全老連政策委員会において策定した素案をもとに、各県・ブロックごとに協議検討を重ね、このたび「老人クラブ100万人会員増強運動」の推進を決定いたしました。

全老連、都道府県・指定都市老連、市町村老連、単位クラブ、会員、すべての老人クラブ関係者が一丸となって運動を展開し、会員増強と老人クラブの活動がさらに前進することを強く期待するものです。

公益財団法人 全国老人クラブ連合会
会長 斎藤 十朗





総力を結集して 全国100万人会員増強を達成しよう！

運動は組織の総意

政策委員会では、新たな会員増強策を検討するため、延べ6回の委員会を開催して、①実践の成功例に学ぶ、②解散は再生のチャンス、③新スタイルのクラブづくり、を念頭に、多様な観点から委員の自由な意見交換・協議に努めてきました。その経過は、都道府県・指定都市老連に随時ホームページで公開して、ブロックを代表する政策幹事を通じて、協議に参画していただくよう配慮してきました。

そうしてまとめた平成26年度から5か年の運動案は、都道府県・指定都市老連へ送付して、ブロック会議でも検討いただくとともに、全国段階における会議（都道府県・指定都市老連会長会議、同事務局長会議、全老連女性委員会）において検討を重ね、全老連理事会・評議員会において決定した、組織の総意のもとに進める運動です。

独自プランを作成して推進

「100万人会員増強運動」は、全国運動の名称であり、全国共通の方針です。運動の推進にあたっては、ここで示した3つの共通実施運動を参考に、各都道府県・指定都市老連で独自の会員増強策運動プランを作成をお願いするものです。さらにそれをもとに市区町村老連でもプランを作成して、会員のみならず、地域内の未加入者・自治会等幅広い関係者へも周知して推進していただきたいと考えています。

都道府県・指定都市老連、市区町村老連における独自プランには、具体的な目標数字を設定していただき、毎年度、達成状況を取りまとめることを計画しています。

また、ここにあげた成功事例は、紙面の関係から限られた紹介になっています。引き続き、各都道府県・指定都市老連にはホームページ等に先進事例を紹介していただき、全老連でも情報共有に努めていく所存です。

この運動は、クラブの総力を結集しなければ成しえないものです。高年会員、女性会員、若手会員それぞれのパワーの発揮に期待したいと思います。

全老連政策委員会委員長
(東京都老連会長)
増田 時枝



運動 要綱

老人クラブ 「100万人会員増強運動」



1 趣旨

- 65歳以上人口が3,000万人を超える中、老人クラブは、新たな仲間呼びかけ、共に基本理念である「4つの“づくり”」活動を目指します。
- そのため全国の老人クラブ関係者が総力を結集して、組織活動の基盤となる会員増強に向けてこの運動を推進するものです。

2 運動期間

- 5か年計画（平成26年度～平成30年度）
- 成果の取りまとめ・公表
 - ・都道府県・市町村別の目標を設定し、毎年度、達成状況を取りまとめる。
 - ・このうち、都道府県の成果を公表する。

3 運動目標

全国100万人会員増強

4 主 唱

全国老人クラブ連合会 都道府県・指定都市老人クラブ連合会

5 実施主体

市区町村老人クラブ連合会 単位老人クラブ

6 運動スローガン

「総力を結集して 全国100万人会員増強を達成しよう！」

- ・高年パワー：75歳以上の高齢者は1,500万人。
会員増強の中心世代です。
- ・女性パワー：老人クラブ会員の6割は女性。
女性会員の結束で勧誘活動を強化しよう。
- ・若手パワー：若手高齢者も1,500万人。
魅力ある活動は、若手会員自らが創造しよう。

運動は役員やリーダーの力だけでは、なかなか成しえませんが、
今こそ、老人クラブ会員のパワーを引き出しましょう！

7 共通実施運動

- 会員増強を達成した成功事例をもとに、次の3つの取り組みを共通実施運動として提案します。
- 「会員増強に資する成功事例」で紹介した事例1～事例36を参考に、クラブの新設や既存クラブでの会員増を目指しましょう。
- 必要に応じて、この共通実施運動に加え、都道府県や市町村で独自に実施運動・目標等を設定しましょう。

3つの会員増強運動

運動① 勧誘から始めよう！

会員一人ひとりが勧誘の担い手です

運動② クラブをPRしよう！

知られていますか、あなたのクラブ

運動③ クラブをつくろう！

すべての地域にクラブの設置を



8 取り組み体制への提案

運動の効果が高まるよう次の取り組み体制を提案します。これらを参考に単位クラブや市町村の実情に応じて、具体的な取り組み体制や目標を設定してください。

単位老人クラブ

①「会員増強委員会」（仮称）の設置

- ・高年、女性、若手の複数名の代表者による委員会の設置
- ・老人クラブの自己点検
- ・地域内対象者の把握

②計画設定・会員との合意形成

- ・増強目標の設定
- ・勧誘の具体策について合意形成

③町内会、自治会関係者との連携

- ・計画の具体化に向けて町内会、自治会関係者の理解と連携

④勧誘・PR活動の推進

- ・地域の加入対象高齢者への勧誘
- ・市町村老連との協同による新たな老人クラブづくり

市区町村老人クラブ連合会

①「会員増強運動推進委員会」（仮称）の設置

- ・老人クラブ関係者のほか必要に応じて、行政、社会福祉協議会、自治会、民生委員、地域包括支援センター等の参画にも考慮しましょう

②老人クラブの実態把握

- ・会員数を「単位クラブ別」、「高年、女性、若手別」に把握しましょう

③相談機能の強化

- ・新たなクラブづくり、解散クラブ防止に向けた相談機能の強化

④目標の設定

- ・月間、半年、年間等の具体的目標を設定しましょう
- ・復活、新設、会員ニーズによる新たなクラブづくりを進めましょう

⑤成果の発表

- ・定期的に目標と達成情報を公表し、具体的な成功例を共有しましょう

都道府県・指定都市老連、 市区町村老連ごとに、 独自のプランを作成しよう！

老人クラブ「100万人会員増強運動」は、全国段階における運動です。

実際に皆さんがこの運動を推進するにあたっては、それぞれの段階で独自の計画（目標数、運動内容）をたてて取り組んでもらうことが必要です。

運動のイメージ



各連合会では、次のような一連の取り組みにより、運動を推進しましょう。

1 計画作成

2 周知

3 現状把握

4 優良事例発掘

5 評価

6 対策

特に、優良事例については、都道府県・指定都市老連や市区町村老連のホームページなどで発信して、情報共有に努めましょう。



独自プランの作成



1

運動目標数の設定

「全国100万人」を、あなたの老連におきかえる

全国100万人という目標数

最大時の会員数と、現在の会員数との差、約200万人の半数を目標とする数字

H10: **887**万人 → H25: **650**万人 → H30: **750**万人
を目指す

全国100万人達成のイメージ

・目標設定1: 年間およそ3%増で97万人!

・目標設定2: 年間1クラブ2名純増で111万人!

・目標設定3: 年間1市町村3クラブ(40名)の新設で104万人!

(※上記はいずれも5カ年継続後の数値)

●全国100万人から割り返した、都道府県・指定都市老連別目標数は、次ページのとおりです。

上記を参考に、連合会において、独自の目標数を設定してください。

例1

連合会における最大時会員数－現在の会員数÷2＝〇〇人

例2

次ページ、資料1による目標数字

老人クラブ「100万人会員増強運動」数値目標(参考)

(単位:人)

老連名	平成24年度末会員数	目標数		
		平成30年度末目標会員数	1カ年当たり増強会員数	5カ年増強会員数
全国合計	6,499,958	7,499,958	200,000	1,000,000
北海道	194,454	224,370	5,983	29,916
札幌市	31,297	36,112	963	4,815
青森県	61,969	71,503	1,907	9,534
岩手県	86,927	100,300	2,675	13,373
宮城県	52,134	60,155	1,604	8,021
仙台市	23,002	26,541	708	3,539
秋田県	81,562	94,110	2,510	12,548
山形県	62,352	71,945	1,919	9,593
福島県	107,356	123,872	3,303	16,516
茨城県	121,390	140,066	3,735	18,676
栃木県	79,397	91,612	2,443	12,215
群馬県	138,096	159,342	4,249	21,246
埼玉県	193,921	223,755	5,967	29,834
千葉県	139,074	160,470	4,279	21,396
千葉市	15,379	17,745	473	2,366
東京都	307,816	355,173	9,471	47,357
神奈川県	110,492	127,491	3,400	16,999
横浜市	121,269	139,926	3,731	18,657
川崎市	27,318	31,521	841	4,203
新潟県	124,129	143,226	3,819	19,097
新潟市	39,252	45,291	1,208	6,039
山梨県	66,797	77,074	2,055	10,277
長野県	130,529	150,611	4,016	20,082
静岡県	144,757	167,027	4,454	22,270
富山県	174,727	201,608	5,376	26,881
石川県	112,995	130,379	3,477	17,384
福井県	66,439	76,660	2,044	10,221
岐阜県	202,399	233,538	6,228	31,139
愛知県	354,766	409,346	10,916	54,580
名古屋市	86,748	100,094	2,669	13,346
三重県	166,052	191,599	5,109	25,547
滋賀県	121,188	139,832	3,729	18,644
京都府	74,167	85,577	2,282	11,410
京都市	61,030	70,419	1,878	9,389
大阪府	280,927	324,147	8,644	43,220
大阪市	71,618	82,636	2,204	11,018
堺市	48,069	55,464	1,479	7,395
兵庫県	309,329	356,918	9,518	47,589
神戸市	39,634	45,732	1,220	6,098
奈良県	107,603	124,157	3,311	16,554
和歌山県	91,000	105,000	2,800	14,000
鳥取県	43,781	50,517	1,347	6,736
島根県	62,743	72,396	1,931	9,653
岡山県	164,347	189,631	5,057	25,284
広島県	121,544	140,243	3,740	18,699
広島市	43,745	50,475	1,346	6,730
山口県	64,324	74,220	1,979	9,896
徳島県	44,502	51,349	1,369	6,847
香川県	78,869	91,003	2,427	12,134
愛媛県	96,998	111,921	2,985	14,923
高知県	36,357	41,950	1,119	5,593
福岡県	190,906	220,276	5,874	29,370
北九州市	42,057	48,527	1,294	6,470
福岡市	43,813	50,554	1,348	6,741
佐賀県	72,790	83,989	2,240	11,199
長崎県	109,134	125,924	3,358	16,790
熊本県	140,476	162,088	4,322	21,612
大分県	86,859	100,222	2,673	13,363
宮崎県	52,835	60,964	1,626	8,129
鹿児島県	112,803	130,157	3,471	17,354
沖縄県	61,715	71,210	1,899	9,495

※ 端数は必ずしも一致しない場合がある



独自プランの作成

2

3つの共通実施運動

有効な実施方法を検討しよう

共通実施運動は、これまでに会員増強を達成した成功事例をもとに、取り組みを提案するものです。詳細を記した次ページ以降では、「会員増強に資する成功事例」36事例を紹介しています。

これらを参考に、あなたの連合会にみあった方法で、クラブの新設や会員増を目指しましょう。

運動 ① 勧誘から始めよう!

運動 ② クラブをPRしよう!

運動 ③ クラブをつくろう!

各連合会における計画の作成にあたっては、この共通実施運動を参考に、検討してください。



3つの共通実施運動



勧誘から始めよう!

会員一人ひとりが勧誘の担い手です

●会員増強の成功例に共通するのは勧誘活動です

みなさんは、どのようなきっかけでクラブに参加しましたか?

多くの調査では、「誘われて参加した」が最も多い回答になっています。

一方、クラブに参加していない高齢者に、「参加していない理由」を尋ねると、「誘われたことがない」が一番多い回答です。

ここからわかるのは「まず、誘うこと」。

勧誘活動は、会員増強の基本です。

●運動スローガンを高年、女性、若手会員で実践しよう

これまで“勧誘”は、会長ひとりの役目になっていませんか?

勧誘にあたっては、「高年は高年に」「女性は女性に」「若手は若手に」

行うことが、有効であると報告されています。

地域で孤立した高齢者がいないように、“会員一人ひとり”が、

周辺の高齢者や高齢者予備軍に声かけをして、クラブに誘いましょう。

会員増強に資する成功事例

事例1 兵庫県川西市

大和友愛クラブ

18のサークル活動を一般高齢者や他のグループへの「声かけ運動」を通じて加入促進。3年間で100名の会員増を達成。

事例2 千葉県東金市

求名駅前長寿会ひまわりネットワーク

東日本大震災をきっかけに、未加入者にも呼びかけ、緩やかなネットワークを形成。情報伝達や活動にも参加できるよう柔軟な運営としている。

事例3 広島県呉市

昭和地区 政敵永寿会

未加入家庭をくまなく訪問。老人クラブの存在や入会方法が分からない、勧誘を待っている方々に呼びかけ、毎年10名以上の会員増(会員数151名)。



クラブをPRしよう!

知られていますか、あなたのクラブ

みなさんは、老人クラブの情報を誰に届けていますか?

会員以外にも届けていますか?

これからの会員予備軍は、あなたの地域にいます。

日頃からクラブの情報が地域住民に届くようにしましょう。

そのためには、次のような工夫が考えられます。

- 自治会活動にも参加して、地域でクラブの存在が知られるようにしよう
- 行政と連携して「介護予防活動」の輪を地域の高齢者に広げよう
- 口コミ、ポスター、チラシ、会報、ホームページ等
創意工夫してPRしよう
- 「いきいきサロン」はPRの場にもなります。運営にもかかわろう

クラブをつくろう!

すべての地域にクラブの設置を

- 自治会と連携して未設置地域に老人クラブをつくろう (事例13～21)
 - 解散の近隣クラブをホスト役に、老連と連携してクラブを再生しよう (事例9～12)
- 現在、会員減少の約7割は、老人クラブの解散が原因と考えられます。クラブの解散、それは、クラブ未設置の地域が増えることにつながります。クラブ未設置地域に、近隣のクラブや地区老連、市区町村老連から呼びかけて、自治会と連携して、新たにクラブをつくりましょう。
- 高齢者の増加に伴い、一地域に複数クラブの設置を目指そう (事例22～23、29)
 - 高齢者の意向が多様化する中、新しいタイプのクラブを考えよう (事例24～28、30～36)

老人クラブの基本理念は、運動要綱に、「老人クラブの目指すもの」として示しました(3頁参照)。これに合致する高齢者組織は、広く老人クラブとしてとらえて誘い、共に活動しましょう。

会員増強に資する成功事例

事例4

大阪府

茨木市老連

市老連の若手部がホームページを立ち上げ、活動を広く紹介。併せてパソコンにより補助金等の申請・報告の指導助言に活躍している。

事例5

福岡市

南区老連

地元大学に支援要請して、ホームページを立ち上げ、学生とパソコンを通じた交流を深めている。



事例6

埼玉県川口市

さしまスローライフ

地域のいたるところに老人クラブ加入を勧める手づくりポスターの掲示をしたり、広報誌の配付を通じて地域の高齢者への声かけを進める。

事例7

福岡県

大野城市シニアクラブ連合会

市広報誌や公民館だよりでクラブを紹介。福祉推進員とクラブ役員の交流会や隣組長会議で活動紹介。

事例8

香川県丸亀市

城坤地区老連

(月刊「全老連」H24.11月号)

解散状態にあった2クラブを地区老連が支援。自治会等の行事にも積極的に参画して老人クラブをPR。新規加入でクラブ復活に成功。

会員増強に資する成功事例

① 休会・解散クラブ復活型

市町村老連が中心になって休会・解散クラブを復活した事例

事例9

静岡県

いきいきクラブ長泉 (町老連) (月刊「全老連」H24.11月号)

休会クラブとクラブ未設置の地域を地図で把握。地域の区長(町内会長)や民生委員などと相談しながら、適任者にリーダーを要請して2クラブ復活。

事例10

岡山県倉敷市

二子百寿会 二子千寿会 二子万寿会

二子地区3クラブのうち1クラブが休会状態。他の2クラブが協力して3クラブ合同の活動組織「ふたご25」をつくり、活動の活性化を支援。

事例11

沖縄県

浦添市老連

(月刊「全老連」H25.3月号)

市老連が主体となって、休会クラブの復活を目指し、自治会の協力も得て3クラブを復活させた。

事例12

宮崎県延岡市

若水会

(月刊「全老連」H24.11月号)

後継者難で解散の危機にあったクラブを、自治会からの住民参加を呼びかける文書回覧等の協力を得て、25名の新規会員の加入で復活した。

② 未設置地域新設型・自治会高年部型

勧誘や自治会、町内会と連携して未設置地域にクラブを新設した事例

事例13 北海道八雲町

くつろぎ会

過疎化、独居高齢者の増加している地域で、根気よく時間をかけて勧誘に努め、平成24年3月に43名の会員で新たな老人クラブを設立した。

事例14 東京都

昭島市老連

町内会に老人クラブの必要性を訴え、協力を得て老人クラブが存在しない地域に新規クラブを立ち上げる。10年間で15クラブを新設。



事例15 横浜市旭区

旭中央支部

町内会ごとのクラブ設置を目指し、自治会の協力で3クラブを新設。

事例16 大阪市住吉区

のぞみ会

(月刊「全老連」H25.8月号)

クラブ未設置の自治会役員が自ら老人クラブづくりを呼びかけ新設。

事例17 鹿児島県

薩摩川内市高齢者クラブ連合会

市老連と支部が連携して、未設置地区に3年間で16クラブ新設。

事例18 北九州市

八幡西区老連

自治会役員の発案で、行政の助言を得ながら、町内会総会の承認を得て、未設置地域に3クラブを新設。

孤立死等の福祉課題を背景に、自治会高年部として会員増を図る事例

事例19 福島県福島市

もちずり地区 慶河苑町内会高齢部

孤立死の発生が契機となって、町内会、民生委員、老人クラブで協議し、さらに住民アンケートによって、65歳以上全員加入の「町内会高齢部」として老人クラブを再編。



事例20 新潟市

北区老連葛塚支部

(月刊「全老連」H25.1月号)

新規4、復活2、解散ゼロの実績は、老人クラブの解散を地域課題として捉え、自治会組織の一部として自治会役員の協力を得て実現した。

事例21 大分県別府市

竹の内自治会所属高年部 若竹会

自治会に所属する形で、自治会総会において若竹会加入を勧め、自治会新聞に活動を掲載している。

③ 年齢別型・女性会員型

年齢によって「若手クラブ」「高齢クラブ」に分けて成功している事例

事例22 長野県飯山市

戸狩老人クラブ

戸狩老人クラブでは、若手会員が増えたため、若手クラブとして「戸狩若手高齢者会」を新設し、高齢クラブ「戸狩長寿会」と2つに分けた。

目的や趣味等による女性会員型の組織の事例

事例23 鹿児島県垂水市

はつらつ老人クラブ

寡婦の方々の連携・親睦の集いから老人クラブへと移行。

④ サークル型・ボランティア型

趣味・文化活動を中心にした組織づくりでの成功事例

事例24 千葉県若葉区

若松台ふれあい広場

平成11年からサークル活動を中心とした運営に取り組む。サークルの変遷を繰り返しながら、現在17サークルで活動中。

事例25 徳島県徳島市

スマイルクローバー会

市内広域の絵画を中心とした高齢者のサークルが市老連に加盟。



事例26 岡山県

瀬戸内市老連邑久支部

クラブ未設置地域でグラウンド・ゴルフ大会への参加を契機に、クラブ設立の要望があることから、趣味を中心とした老人クラブ設立を検討中。

環境、子育て、野鳥保護、生活支援等のボランティア中心の活動事例

事例27 名古屋市熱田区

神戸町不老会

観光客も多い史跡「宮の渡し」周辺を美しくするために、昭和30年より清掃を行ってきたグループが48年にクラブ結成。現在も活動を継続。

事例28 静岡県島田市

初倉地区 翡翠会

カワセミの保護活動のため、生息地の清掃活動に従事。また自治会との協同活動で防犯、交通安全、子ども会との交流や地域行事にも協力。



消防ポンプ点検

⑤ 既存クラブ活性化

(分離型・個別活動中心型・バランス運営型)

会員増によって姉妹クラブとして分離する事例

事例29 群馬県館林市
近藤永寿クラブ

平成17年に50名でスタートしたクラブが、24年には204名になったため、地区別に2クラブに分割した。

会員数の多い単位クラブでは、個別活動を中心に運営する事例

事例30 茨城県土浦市
板谷町はつらつきいきいき会 (月刊「全老連」H25.4月号)

10のサークル活動(文化系6、運動系4)と、全体活動のバランスを取って活動していることが会員から支持されている。

事例31 千葉県若葉区
小桜明星会 (月刊「全老連」H25.7月号)

趣味サークルを増やして現在12サークル(フラダンス、日本舞踊、ゴルフ、輪投げ、スポーツ吹き矢等)。これにより会員が倍増(64名⇒102名)。



共通活動と高年、女性、若手の主体性に任せたバランス運営の事例

事例32 滋賀県米原市
山東(地区)老連

「シルバー青年倶楽部」は地区の若手会員を募集して花づくり活動。「女性部」は3学区ごとに活動交流。連合会が運営する景勝地(野鳥観察)『三島食堂』のスタッフは希望者というように、それぞれが主体的に活動に参画。

⑥ 地域横断型

目的によって単位クラブの枠を超えた活動に非会員も参加する事例

事例33 宮城県栗原市
一迫地区老連 (月刊「全老連」H25.7月号)

単位クラブ活動に加えて魅力ある活動を目指し、地区老連で12の高齢者教室を開催。会員増につながっている。



事例34 千葉県
茂原市長寿クラブ連合会

グラウンド・ゴルフ愛好者の集まりは、地域横断型のサークルであるが、市老連では老人クラブとして認めて活動を支援している。

事例35 徳島県徳島市
なでしこシニア・みなづき会

明るい長寿社会推進機構が主催する「シルバー大学校」の卒業生が組織化して市老連に加盟。

所属クラブ以外の活動にも参加している事例

事例36 千葉県
浦安市老連

所属クラブの同意を得て、趣味活動を通して他クラブへも越境(市内を範囲)して入会している会員がいる。それぞれのクラブでは、正会員・準会員の区別をしている。

会員増強への意見・事例から見える「キーワード」



- 会員増強策については、これまで老人クラブ関係者から多くの貴重な意見や取り組み事例が紹介されています。
- 寄せられた意見等を、以下の「キーワード」にまとめましたので、独自プランの作成などにお役立てください。
- このキーワードは、単独ではなく、複合的・重層的に組み合わせられて、初めて効果が期待されるものです。

加入促進の **キ** **ー** **ワ** **ー** **ド**

Keyword

- | | | |
|------------|------------|-------------------|
| ● リーダーの意欲 | ● 加入促進委員会 | ● 他高齢者グループへの声かけ |
| ● 活動の魅力 | ● 体験型加入促進 | ● 未加入者への情報提供 |
| ● 楽しい活動 | ● 数値目標の設定 | ● 相談支援体制の強化 |
| ● 加入のメリット | ● 地域行事への参画 | ● 新規事業の開発 |
| ● 地域支え合い | ● 広報PR、HP | ● いきいきサロンの実施 |
| ● 顕彰制度 | ● 行政等の広報活用 | ● 戸別訪問、口コミ、お誘い |
| ● イメージアップ | ● 地元名士の加入 | ● 高齢者の生活を守る活動 |
| ● 若手人材の発掘 | ● 年代別の活動 | ● 自治会や他団体との連携 |
| ● 活動の場づくり | ● 若手、女性の活用 | ● 未加入者へのアンケート調査 |
| ● 名称変更 | ● 行事オープン化 | ● 未加入者リストの作成 |
| ● サークル活動 | ● クラブ選択制 | ● 自治会との連携による新設クラブ |
| ● 広域型クラブ | ● 休会クラブの復活 | ● 未組織地区での新設 |
| ● 自己点検 | ● 事務局体制の強化 | ● 人材育成、役割分担 |
| ● 行政との連携強化 | ● 後継リーダー養成 | ● 単位クラブと連合会の連携 |

等

クラブ自己点検の すすめ



- 会員増強の成功事例では、以下への対応・対策が講じられています。
- 目標達成に向けて、自らのクラブの自己点検に生かしましょう。

点 検 項 目

Check

1	自治会や他団体との連携はできていますか？	はい	いいえ
2	地域や自治会主催の行事等に参画していますか？	はい	いいえ
3	従来方式にとらわれず 活動や運営方法に柔軟性がありますか？	はい	いいえ
4	若手や女性を積極的に登用して 後継リーダーを養成していますか？	はい	いいえ
5	活動を会員はもとより非会員や地域にPRしていますか？	はい	いいえ
6	体験参加を呼びかける活動はいくつありますか？	はい	いいえ
7	会員全体で地域の未加入者に勧誘活動をしていますか？	はい	いいえ
8	リーダーの役割分担、会員との協力体制は十分ですか？	はい	いいえ
9	新会員に誇れるクラブのセールスポイントはありますか？	はい	いいえ
10	会員の意向を把握していますか？	はい	いいえ

これまでの検討経過と今後の予定

- 平成24年度
 - 12月～2月
 - ・「老人クラブ活性化3カ年計画」の取り組み状況・成果等に関するアンケート調査の実施（対象：都道府県・指定都市・市区町村老連）
 - 12月6・7日
 - ・都道府県・指定都市老連会長会議
 - 「老人クラブ活性化・加入促進」関連資料配布
 - 2月13日
 - ・都道府県・指定都市老連事務局長会議
 - 「老人クラブ活性化・加入促進」関連資料配布
- 平成25年度
 - 4月10日
 - ・第1回政策委員会
 - * 活性化3カ年計画の総括
 - * 総括に関する意見交換
 - 6月13日
 - ・第2回政策委員会
 - * 委員による会員増強策の提案①（自県事例をもとに）
 - * 意見交換
 - 6月24・25日
 - ・都道府県・指定都市老連事務局長会議
 - * 事例・意見発表「加入促進と活性化に関わる事例、新たな活性化策に関する意見」
 - * 分散会「加入促進に向けた新たな活性化策の検討について」（各県から加入促進に資する事例発表）
 - 6月26日
 - ・第3回政策委員会
 - * 委員による会員増強策の提案②（自県事例をもとに）
 - * 意見交換
 - 7月23日
 - ・第4回政策委員会
 - * 委員による会員増強策の提案③（自県事例をもとに）
 - * 意見交換
 - 8月20日
 - ・第5回政策委員会
 - * 会員増強の具体策の検討
 - 9月17日
 - ・第6回政策委員会
 - * 会員増強の具体策の取りまとめ
 - 「老人クラブ100万人会員増強運動」（案）
 - 9月27日
 - ・運動案を都道府県・指定都市老連に報告
 - 10月～11月
 - ・ブロック連絡協議会での情報交換
 - ・都道府県・指定都市老連ごとに具体策の検討
 - 12月3・4日
 - ・都道府県・指定都市老連会長会議で合意形成
 - 12月～3月
 - ・広報媒体の作成作業（パワーポイント等）



- 2月4日 ・ 都道府県・指定都市老連事務局長会議で具体化の協議
*市区町村段階への周知・次年度計画への反映
- 3月7日 ・ 全老連理事会及び評議員会において、平成26年度事業計画における運動方針として協議・決定

●平成26・27年度

- ・進捗状況の把握及び取り組み事例の収集とPR
- ・研修会、大会等での事例発表

以後、上記の毎年度実施に加えて、新たな課題整理と対応策の検討

●平成28年度

- ・中間年総括（全体総括及び高年・女性・若手ごとの成果等）

●平成30年度

- ・最終年



政策委員会 委員・幹事名簿

(平成26年3月現在)

委 員

- 委員長 増田 時枝（全老連副会長、東京都老連会長）
- 副委員長 秋山 隆（幹事長、東京都老連事務局長）
- 委員 永井 愛子（全老連副会長・女性委員会委員長、東京都）
- 松寿 庶（全老連副会長・常務理事）
- 川尻 禮郎（全老連理事）
- 齊藤 秀樹（全老連理事・事務局長）
- 落合 一弘（副幹事長、埼玉県老連事務局長）
- 鷺島 勝（副幹事長、大阪市老連事務局長）

幹 事

- 幹事長 秋山 隆（再掲）
- 副幹事長 落合 一弘（再掲）
- 鷺島 勝（再掲）
- 幹事 高橋 潔（山形県老連事務局長）
- 大藪 定信（千葉県老連事務局長）
- 多田 正徳（石川県老連事務局長）
- 澤村有利生（山口県老連事務局長）
- 斎藤 弘明（徳島県老連事務局長）
- 九万田 登（鹿児島県老連事務局長）

老人クラブ

「100万人会員増強運動」



平成26年3月

発行 公益財団法人 全国老人クラブ連合会
〒100-8917 東京都千代田区霞が関3-3-2
新霞が関ビル
03-3581-5658（代）

印刷 株式会社トライ

000253041